

様式第6号（第9条関係）

大崎市地域自治体制整備実証事業交付金実績報告書

令和2年 4月10日

大崎市長 様

名 称 岩出山地域づくり委員会

所在地 大崎市岩出山字上川原町8番地1

会長名 石 田 政 博

電話番号 0229-73-1274



平成31年4月1日付け大崎市指令（ま）第5号で交付決定を受けた大崎市地域自治体制整備実証事業交付金について、下記のとおり実施したので、大崎市地域自治体制整備実証事業交付金交付要綱第9条の規定により関係書類を添えて報告します。

記

- 添付書類 1 実証事業交付金事業実績書（様式第7号）
- 2 実証事業交付金収支決算書（様式第8号）
- 3 その他市長が必要と認める書類



実証事業交付金事業実績書

団 体 名	
活 動 内 容	<p>今年度も、岩出山地区で活躍する多種多様な団体とのネットワーク構築に力を入れた。岩出山福祉会や岩出山自主防災会連絡協議会とのワークショップでの学習会では、構成員の意識の向上が何より大きな効果で、次年度への新たなステップとして計画も考えているようだ。委員会のバックアップ事業として、お互いの役割を明確にしながら、連携できるシステムは「支え合い」を進化させていると実感できる。</p> <p>岩出山地区全住民アンケートにより、分析データをワークショップ等、それぞれの場面で活用した。それらを今後も参考になる資料としてファイリングして34の各親交会に配布しながら、ヒアリングも行った。</p> <p>ヒアリングでは、34の各親交会の「持続可能な地域自治」は必須で、各親交会の課題や取り組みを拾い上げ、丁寧に「委員会に何が出来て、何が出来ないのか」等を、明確にしていく作業を継続してきた。各種団体ヒアリングには、宮城大学地域連携センター中嶋紀世生氏に同行し、同じく事業の仕分け作業に着手した。</p> <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全住民アンケート報告会 1回 7月15日 ・福祉推進員おしゃべり広場 1回 10月12日 ・自主防災会連絡協議会ワークショップ1回 12月15日 <p>【意見交換・情報共有・ヒアリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩出山小学校（1回） ・岩出山高等学校（3回） ・岩出山中学校（2回） ・岩出山福祉会との情報交換及び打ち合わせ会（6回） ・地域づくり委員会での情報共有 (総務部会4回・役員会3回) ・子育てサークルとの意見交換会（3回） <p>【その他 会議・研修・フォーラム等】（全21回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治・コミュニティーワーク研修 (7・10)みやぎの小規模多機能自治の進化を考える勉強会他 ・地域包括・認知症等、社会福祉課・社協等関係の研修

	<p>(4・19)玉造地域ネットワーク全体会議 他 地域支援コーディネーター意見交換会（大崎市主催）5回 ※他、別紙事業一覧表参照</p> <p>前年度の「全住民アンケート実施」による分析結果をもとに、親交会長・区長さん、各種団体長さん等へのヒアリング（会話）を積極的に行った。各親交会毎に環境が違うことから、委員会ではネットワークづくりを進めることと同時に、課題を共に解決していけるようなバックアップが出来るよう進めた。</p> <p>また、話し合いの場づくりとしてワークショップでも全住民アンケートの分析結果を共有し、改めて意見を出し合ったりする中で、役員同士が課題意識を持ち自主的に活動し始めたことは、日頃の支え合いにも結び付いているようだ。</p> <p>行政・社会福祉協議会・包括支援センターとの情報交換や連携によって、岩出山地区の現状を共有しながら、各種団体が岩出山地区民のニーズを上手く吸い上げ、動けるシステム構築に動き始めた。全住民アンケートの分析結果や、ワークショップを経て、住民意識が向上し、各種団体への協力体制が上手く機能するよう更にネットワークを広げて行く。</p>
<p>人材育成等の取り組みについて</p>	<p>積極的な研修参加により、他地域のコーディネーターとの交流も増え、情報交換の中から、当地域に適した「岩出山のくらし（支え合い）」の体制づくりを学習・研究し活動に生かした。また、岩出山地区内の生活支援体制構築に向け、行政各課との連携や社会福祉協議会岩出山支所との連携、子育て自主サークルや岩出山福祉会等各種団体とのネットワークづくりにも積極的に取り組んだ。</p> <p>行政呼びかけの大崎市内の地域支援コーディネーターの方々との意見交換会は、大変貴重な勉強会にもなっており、積極的に参加。</p> <p>コーディネーター2人それぞれの活動が、次年度に結び付くように、前向きに研修や視察計画をし取り組んだ。</p> <p>コロナウイルス対策により、実施できなかった計画に関しては、知恵をしばりオンライン会議も経験したことが不幸中の幸いで、今後の事業に生かしたい。</p> <p>【主な研修・学習の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援コーディネーター意見交換会

		<p>(大崎市主催) 5回 ※社会福祉課開催含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おらほの自治を考える会研修、地域支え合い研修、視察研修等 全9回 ・視察受け入れ(相互研修) 7回 ※登米市、静岡県、広島県、島根県等 ・先進地視察研修4回(七ヶ宿、白石市、茨城県水戸市、登米市) <p>【※別紙一覧表添付】</p>
	<p>実態把握・調査研究について</p>	<p>前年度の「全住民アンケート実施」による分析結果をもとに、親交会長・区長さん、各種団体長さん等へのヒアリング(会話)を積極的に行った。各親交会毎に環境が違うことから、委員会ではネットワークづくりを進めることと同時に、課題を共に解決していけるようなバックアップが出来るよう進めた。</p> <p>空き家課題学習会からの、地域ニーズは一貫して高いと思われる。大崎市各課とのつながりを作ったことと、参加者との意見交換等により、今後も継続していけるような実績も作れた。移住サポーター兼空き家課題解決担当職員の誕生は、今後に期待が持てた。</p> <p>また、話し合いの場づくりとしてワークショップでも全住民アンケートの分析結果を共有し、改めて意見を出し合ったりする中で、役員同士が課題意識を持ち自主的に活動し始めたことは、日頃の支え合いにも結び付いているようだ。</p> <p>コーディネーター補助として、6月から職員として活動した子育て真っ只中の白鳥歩によって、同世代(20~30代)とのつながりを深められたことは、活動の成果だった。その世代の積極的な地域づくりへの参加を促し、自主サークルの運営も活発化し、何より「子育てを楽しむ」方法を自ら企画運営できる人材育成につながった。</p> <p>研修企画、イベント参加、託児経験等、すべての体験から、よりベストな形で進化させていけるものと感じた。「相談を受ける」という機会に、丁寧に向き合い、バックアップすることでネットワーク化されることが体験できた一年だった。</p>

<p>職員の雇用について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配置状況 常勤 ・地域支援コーディネーター1名：千葉暢子 非常勤 ・地域支援コーディネーター補助 3名 安部正浩（4月～9月） 白鳥歩（6月～） 渋谷大輔（1月～） <p>地区公民館の館長が、地域支援コーディネーターを兼務して行ってきたモデル事業から、実証事業に切り替わったタイミングで地区公民館を退職して専属とした。モデル事業時に想定していたとおり、地区公民館の副館長が館長となり、生涯学習推進員としてもスキルと経験を十分に発揮し、地域づくりと連携できる最もよい体制で進められた。6月から、コーディネーターの補助として白鳥歩を雇用し、子育て中心に積極的にネットワークを広げ「他世代ネットワーク」を構築に向け前進させた。</p>
<p>運営について</p>	<p>常勤職員は1人である為、日常の点検は、随時の総務部会での相談・報告・協議で対応している。</p> <p>地域づくり委員会総務部会において協議し、岩出山地区公民館職員の協力を得ながら運営してきた。役員会で報告し、建設的な意見をいただきながら円滑な運営ができた。</p> <p>事業のたびに、役員には案内をかけ参加協力の中で、知識を相互に高めながら、協力し合って運営してきた。</p>
<p>初度設備について</p>	<p>デスク回りの整備を行った。観光名所に隣接していて、有備館駅構内という立地から、観光案内所的な役割を担えるような環境を確保した。</p> <p>また、映像が流せるよう、モニターを設置することにより、地域情報を放映したりできるようになり、多方面から好評を得た。</p>
<p>地域の特性や資源を活かし、地域ニーズに即した事業について</p>	<p>ワークショップの開催は、地域ニーズを拾い上げるのに、これまでも大きな効力を発揮してきたと考えてる。</p> <p>何より、主催者（各種団体）と参加者が当事者意識を持ち環境の違う34の親交会が、誇りを持って親交会内運営を行ってもらうことが最終目標。各々が、地域の宝（地域資源）を生かしながら地域課題を解決するとき、相談およびバックアップできる体制が出来ていることが望まれる。</p> <p>各34の親交会が楽しく、持続可能な体制づくりに向かう</p>

	ように丁寧に寄り添う活動を行ってきたが、これからもそんなシステムが創れるといい。各34の親交会が楽しく、持続可能な体制づくりに向かうように丁寧に寄り添う活動を行った。
備 考	

•

様式第8号（第9条関係）

実証事業交付金収支決算書

歳入

（単位：円）

区分	歳入決算額	決算内訳
交付金	5,420,000	モデル事業交付金
雑収入	20	利息
計	5,420,020	

歳出

（単位：円）

区分	歳出決算額	交付金 充当額	決算内訳
地域行動計画策定費	194,979	194,979	話し合いの場づくり（ワークショップ）経費、団体・企業連携事業経費等
人材育成事業費	297,621	297,621	有備館駅前にぎわいづくり事業（U-Baプロジェクト）経費、イワユメプロジェクト経費、外部有識者への謝金等
実態調査調査研究費	299,971	299,971	全住民アンケート経費、空き家課題学習会、子育て環境調査・研修費等
人件費	4,051,280	4,051,280	地域支援コーディネーター給与、事務補助員給与、事務手当、保険代等
運営費	199,521	199,521	灯油代、電気代、印刷機利用代等
初度設備費	297,601	297,601	デスク回り経費（パソコン・書棚等）、団体間連携・U-Baプロジェクト事業設備費等（広報モニター等）
計	5,340,973	5,340,973 /	

添付資料：領収書等の写し